



児童文化のために

牛 島 義 友

終戦後約十年、日本の児童文化も漸く之に復し、否戦前以上の水準に達したのも少くない。

玩具の輸出も輸出品中第二位を占めるまでに伸びたし、質においても安からう悪からうの域を脱して信用を取戻しているようである。絵本や絵雑誌も高い水準に達した。少くも一流絵雑誌、絵本は外国の何処に出してもそれほど恥かしくない。元来月々絵雑誌が発行されるのは外国には余り例がないらしく、この機構のお蔭で月々多くの画家を動員し日本特有の童画家を育てあげてきた。昨日も小学館の児童文化賞授与式に参列したが、永年闘病生活をしながらも優れた特有な画

風で子供の絵を描いていた茂田井武氏が授賞されたが、初山滋氏、武井武雄氏その他のベテランは世界にも類の少い存在ではなからうか。

即ち一流のメーカーや大出版社が作っている文化財は相当に高い水準に達しているといえよう。しかしここに問題がないわけではない。むしろマンネリズムや人気作者への集中、模倣的傾向などの問題がある。文化財製作担当者達は絶えず企劃に新鮮味を加え細かな訂正を加えながらその育成に努力している。しかし大局から見れば相も交らず同じような物が出されているというような印象を与える。これは企業が余りに大きくなったために、根本的な編集方針の改革や冒險的企劃が出来なくなったためである。発行部数が多いだけに一回

の失敗は取りかえしのつかない損失を招く危険がある。従つて執筆画家なども新人を登用する事が非常に困難になつてくる。物語の作者にしても、或いはラジオの出演者にしてもスターを育てるといふよりもスターを利用する事に夢中になる。これは一番安全な方法であるが同時に水準以上に伸びる事の出来ない行き詰りの原因ともなる。或いは何処かで成功した企劃や新案の玩具やラジオのプロは直ぐ他から真似られる。

このように一流の文化財は或る程度に水準には達しているが行き詰りの現象を示している。反面夜店や田舎の駄菓子屋などにはいかかわしい漫画本や俗悪な絵本や粗末な玩具、不衛生な食品玩具、射倖心をそゝる当てもののみが並べられている。日本の児童文化財には上層と下層の階級的対立が表われている。これらの下層な児童文化はその取り締りも困難なほど多数の零細業者によつて供給されている。

このようないかがわしい不良な文化財に対しては取り締りの強化が望ましい。言論出版の自由はあつても、子供に害悪を加えたり、健全な成長をそこなう自由であるのではない。むしろ子供を守るために取り締りの徹底が望ましい。先般児童文化協議会に、この点が話題になつた時にその取り締りは政府の立場であるのか、或いは日教組などの立場からするのかとの反問をする人がいた。たしかに大人の文化財に対

しては下手な取り締りは言論の圧迫、人権侵害になる危険がある。しかし児童を対象とした文化財の取り締りにおいてはこのような思想性は余りないはずである。自由主義の立場においても社会主義の立場においても不衛生な玩具や、射倖心のみをそゝる当てもの、粗悪有害な玩具、俗悪な漫画本、余りにも荒唐無稽な非科学的なもの、安価な感傷性のみあつて健全な家族関係、人間関係を破壊する小説、性的早熟を刺戟するような作品などが承認される筈はない。子供の心身の安全に対しては親たちがその保護に夢中になつてゐるが、社会でもまた子供を守る必要がある。成長していく子供は到底家庭だけでは守り通しえない。

しかし小物玩具や食品玩具や漫画や低級絵本などが汎濫するのはそれが安くて面白いからである。この点に関しては一流の業者や出版者たちも反省する必要がある。小資本の企業から生産されるものの方が安いという事は理窟に合わないことである。資本主義の精神からいつても大資本の製品の方が安価でよりよいものになる筈である。大出版社が小出版社に価格の点において競争に負ける事は理に合わない。そこで絵本についていえば大出版者の反省を求めたい。その資本を利用して優秀な画家に優れた絵本を描いてもらひそれを大量に安価に流すことによつて俗悪な絵本を追放してほしい。経費を節減するためならば或いはすでに絵雑誌で印刷した物の中か

ら優秀な絵だけを取り出し編集しなおしたものでもよい。紙質を少し落してもよいから夜店に出ている絵本よりも安い価格で全国普及版絵本を作つてほしい。玩具などではこのような大資本による大量生産には隘路も多いと思うが、出版文化にはかゝる方法が可能なのではなからうか。

一方小企業の文化財生産者達はその獨創性と専門性において特色を発揮してほしい。大企業では到底發揮できない獨創的企劃と子供の個性的趣味にかなつた特色を持つた文化財を生産することによつて大企業に対抗していつてほしい。先般本誌で紹介された大型の動物人形などは大量に生産されているものではなく、敬虔な修道尼たちが注文に応じて心をこめて作つてくれるものであるがこのような獨創的な個性をもつた優秀な物が方々において工夫されるならば、小資本の業者でも大資本以上の文化財貢献者となりうるであらう。

二

優秀な文化財というと精巧なゼンマイ仕掛の美しい玩具だとか、立派な絵本、読物、或いは衣裳や製作に莫大な費用を使った劇や放送プロなどを直ぐ考へる傾向があるが、子供のために資本と技術を使つて生産したものだけでなく、親や保母や或いは子供自身が作り出すものもまた立派な児童文化財である。先般お茶の水女子大で保育のワークショップが行わ

れた際に保母さんたちの工夫した教具や玩具が多数陳列されていた。その中で川口の幼稚園から出品された大変優秀な玩具が目についた。川口の市は鑄物工業の盛な所であるが、この鑄物を作る木の枠が廢品として沢山出てくる。この廢材はたゞ燃料として燃しているが、この幼稚園の保母さんはこれに目をつけて面白い玩具を作られた。この木型の断片には、実際にいろいろな千種万様な形の木片が使われる。製作される鑄物の形体に応じて種々の木片が必要になるらしい。これらの木片は一つ一つが形が違つていただけに皆何かに見えるようなものである。机の脚にもなるし、人間の帽子にも手にも足にもなるような形をしている。しかも一度強力に熱を受けているせいか特有な渋い褐色の色をしているので、そのまま寄せ集めたゞけで面白い玩具が出来る。ふつうの積木以上によい材料となつてゐる。この材料で作られるものは一定の形の物ではなく、絶えず工夫された一つ一つが違つた形となる。このようにして作られた玩具も大変よいものであるが、子供自身が作れば一層よい教育的な玩具となる。この鑄物の木型を払い下げてもらつてそれを各幼稚園に分けるような仕事をしてはと話し合つたものである。

木の葉や笹などを使つた自然物利用の玩具が優れている事は保育者の常識となつてゐる。笹の葉で舟を折つてそれを流れて流してしまふのもその瞬間における子供の遊びとしては

大麥面白いものである。しかしこのような物は兎角一匹きりで流してしまうとか捨て、しまうもので長く保存して楽しむような事は困難である、否、その場その場で作つて暫らく楽しんで明日はまた新しい玩具を作るところに自然物玩具のよい点があるのかもしれない。しなびた葉っぱ、麥色した茄子の房などは子供の生活にふさわしくない。

しかし折角子供が心をこめて作つたものであるから一回だけで流してしまうよりはもう少し長く、せめて一月位遊び道具となつてくれれば一層楽しいのではなからうか。こういう点で幼稚園、保育所の製作は反省されてもよからう。即ち今日ふつうになされている製作は材料が画用紙や色紙が主であるために作つたもので遊ぶことが余りできない。骨を折つて作つた紙の花籠も遊び道具としてはそれほど面白くはない、それよりは風車やこまの方が余り程面白い。即ち製作はたゞ作ることだけに興味を持たせるのでなく遊ぶものを作らせるというふうに指導すべきではなからうか。目的のない製作ではなく、一つの遊びを目標としてそれに必要な道具を作るといふ形の製作が子供にとつては楽しいし、またそれが眞の生産活動になるものであろう。このためには使う材料も原紙とか木や竹、或いは接着用にも糊の他にセメダインやセロテープ、或いはボルトナットなども活用すべきではなからうか。

このためにはやはり保育者の指導が必要である。子供の創意工夫を要求し、勝手にやれといつてもそう容易に創意は生まれてこない。先生或いは友達からヒントを受けて模倣しながら自分の考えを創造していくものである。

保母が一定の材料を与えその作り方を示しながら製作すると余りに指導的になりすぎるが、種々な形に切つた材料を用意し、保母が勝手に幾つかの物を作り、子供はそれに刺戟されて、まためいめいの特有のものを製作するという形をとるのが望ましい。このためにはありきたりの手本や教材ではなく先にも例示したような様々なその土地々々において廢物にされているようなものを活用したり、又その組合せ方についての技術的暗示や指導を与えること、更に保母自身も創意を働かして新しいものを作つて見せるという事が大切である。